

過剰な防御や安易な言動が招く不当な差別

～Withコロナの時代を生きるために～

毎月11日は「人権を確かめあう日」です

天理大学ラグビー部で新型コロナウイルスのクラスターが発生しました。

それが原因で、

ラグビー部員以外の学生が、アルバイト先から出勤停止や、教育実習を予定していた学校から受け入れを断られるなど、不当な扱いを受けているのをご存知でしょうか？



ほかにも、高校の部活動などで新型コロナウイルスの集団感染が相次ぎ、生徒たちがネット上で誹謗中傷される事態が起きています。

こうした動きは感染者が出ていない学校にまで及んでいて、ツイッター上には街で見かけたユニホーム姿の生徒らの写真を載せ、批判する投稿もあります。また、あるスポーツ強豪校には、「全員をPCR検査したほうがいい」「部活やっているのか」などと、暗に自粛を求めるようなメールが複数届き、この学校は生徒が中傷されることを避けるため、活動を休止し、寮生の外出も制限しました。

人びとが自分の命とともに大切な家族や子どもを守るため、感染を恐れるのは自然な気持ちだと思います。しかし、過剰な防御や反応が不当な差別につながり、影響が及んでいない学生や学校、関係者たちまで批判にさらされています。この現状を変えなければ、クラスターが発生したら、いじめや受け入れ拒否などが生じるとともに誹謗中傷や排除の行動などがエスカレートしていきます。

私たちは社会生活を営む上で、「集団」で生活することが多いです。生活する上で、たくさんの方が出入りする場所に出かけます。クラスターは私たちの身近でどこにでも起こりうる可能性のあることなのです。

プロのスポーツ選手からは、学校や生徒らを過剰に責める風潮に疑問の声も上がっています。

コロナ感染者に対し、非難ではなく、心配してる人も沢山います。私たちは温かい目で見守り、再び夢に向かって頑張っていけるように応援していくことが大切ではないでしょうか？



Withコロナの時代 お互い思いやりの心を持って過ごせるように、努めていきましょう。

宇陀市人権啓発活動推進本部

2020.9

※このビラへのご意見・ご感想は

☎0745-82-2147または jinken@city.uda.lg.jp.